

学校評価結果公表シート ー 苫小牧聖ルカ幼稚園 ー

1. 園の教育目標

<p>『神おさな児を守りたもう』 キリスト教の精神に基づき、大きな恵みの中でゆったりと安心と安全な生活を送ることが出来るようにと望んでいます。 毎日の生活の中で遊びを通して、他人を思いやる豊かな感性が育つようにと望んでいます。 明るく、元気に、のびのびと育ててほしいと望みます。</p> <p><保育方針> ・乳幼児に優しい環境の構成を整える ・豊かな感性を育てる ・他人を思いやる優しい心を育てる</p>
--

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

<ul style="list-style-type: none"> ・『三本の柱』の充実 食育「ごはんちゃん」…旬の食べ物、料理、食の栄養と健康、命に生かされることへの感謝。自然教育「森のようちえん」…神様が創造された被造物への感謝、命の循環を知る、季節を感じる。自然の美しさと脅威を知る。 情操教育「こども聖歌隊：スマイル」…歌を通してイエス様の教えを知る。音楽に親しみ、リズムや音を感じて表現することを通して感性を養う。 ・家庭のような温かい保育環境と手厚い保育…一人ひとりを見守り理解を深め、寄り添った保育を行う。 ・園内研修の充実…質の良い保のための研修内容を選んで受講。各クラス担任の思いをチームで分かちあう時間を大切にする。研修で学んだことを全体で共有する。 ・小学校との連携

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況
園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育を通して他者を大切に愛しむ心を育み、子どもたちの実態を踏まえながら主体的な活動となる保育内容を計画的に進めている。
幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に指導計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日振り返りを行い、子ども一人ひとりの実態把握に即した指導計画を作成し、主任、園長もその都度確認。 ・職員同士の連携を図りながら子どもの成長に見合った保育展開を行っている。課題が見つかった際は改善策を検討して修正している。
安全で清潔感のある環境構成をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室やトイレ、廊下など定期的に清掃を行っている。 ・感染防止、衛生面を保つよう適宜消毒を行なっている。 ・安全に配慮した保育室の環境に努めた。
幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がけている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの個性を認め、よさに目を向ける意識を身につけるよう心掛けている。子どもたち同士がお互いの価値観などの違いを認め合える関りに努めた。

保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努めている	・昨今の出来事、保育の中で幼児の成長した姿、時には困ったことがあった時とその対応とその後について必要に応じて伝え、喜びや悩みを共に分かち合い信頼関係を築いていくことに努めている。
地域や社会とのかかわりをもつように努めている	・こども聖歌隊活動や大きな行事における礼拝でお捧げされた献金は、必要とされる子ども支援のために寄付している。 (年4回…セーブザチルドレン：能登半島地震緊急支援、ユニセフ協会：ガザ人道危機緊急支援募金、苫小牧市社会福祉協議会：子ども支援のため、苫小牧市内：フードバンク)
保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加している	・北海道私立幼稚園協会主催の研修、聖公会北海道学園主催の研修、保育連盟協議会主催の研修、園内研修（毎月実施）等に参加。
人事管理・財務管理を適正に行っている	・公認会計士、社労士の監査を受け、適正に行っている。

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1号認定園児数が定員を下回り、数年伸び悩んでいる	新規1号園児獲得に向けて、子育て支援事業の充実と、地域に根差す活動を通して認知とつながりを強化させていく。
1号認定の預かり保育	この数年で2号認定、3号認定の入園希望が年々増加傾向にあり、2号認定枠を広げ、体制も整えたが、更に1号認定の預かり枠を広げることで更に職員配置も増やさなければならず、現状としてはかなり厳しいところ。安全な保育の確保を考えると、預かりを必要とする要件が認められる場合において受け入れている。
研修の充実	年度初めに園内研修年間計画を立案。 当園にとって今必要とされる研修内容を担当者間で検討し、行っていく。参加した教職員の一人一人がそれについて考え、声をあげ、深い学びと意欲、資質向上につながっていくよう進めていく。 参加できなかった職員にも共有していく。
業務の効率化	ICT化推進を継続。サービス機能の利用幅を広げ、一つずつじっくり慣れていきながら定着させている。保護者の電話対応や連絡帳記入、指導要録や週日案作成はすべてPC入力作業に変わったことで、事務作業は大幅に減少している。
保育参観の提供	保護者の要望に添って計画しているが、参観日程は様々な意見が聞かれる中で難しさを感じている。園としては平日に設定したいところ（職員の代休の関係で）だが、就労する保護者は休み調整の難しさから土日開催希望も多いため、大きな行事は土曜日、より日常活動に近い参観については平日開催とした。また、事情により延期の場合は平日開催とした。